Girls' Future Report 2023

Social Issue Lab SIL

「女の子だから」

そのひとことで、

諦めた道がある。手放した夢がある。

挑戦することすら敵わなかった、

そんな少女の未来を変えるために。

Social Issue Lab が

少女たちの直面する課題を徹底調査しました。

彼女たちの翼が折られることなく、

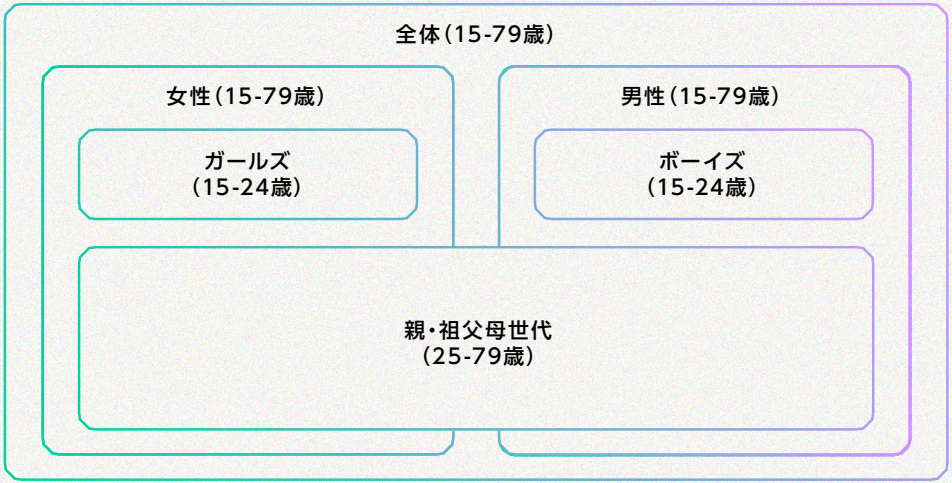
自分らしく羽ばたける社会を願って。

Girls' Future Report 2023

調査概要 Survey Overview

調査対象者	全国の 15～79 歳男女　※中学生以下は除く
回答者数	2,400人
割付方法	①15～24歳：1,200人　②25～79歳：1,200人 ・女性の生の声をより多く集めるために、①②とも男女比を 1：2 で回収 ・分析時は、令和2年国勢調査の性年代構成比にあわせてウェイトバック集計し、 世の中の縮図を再現したスコアを採用
調査方法	インターネットリサーチ
調査期間	2023年9月25日（月）～ 26日（火）
調査実施	株式会社 H.M.マーケティングリサーチ

対象分類図 Classification Map



このレポートでは、15-24歳の女性を『ガールズ』、男性を『ボーイズ』と定義して分析。
また、その上の年代（25-39歳 / 40-59歳 / 60-79歳の男女）もガールズ・ボーイズの比較対象ならびにその親・祖父母世代の回答として、分析対象にしている。

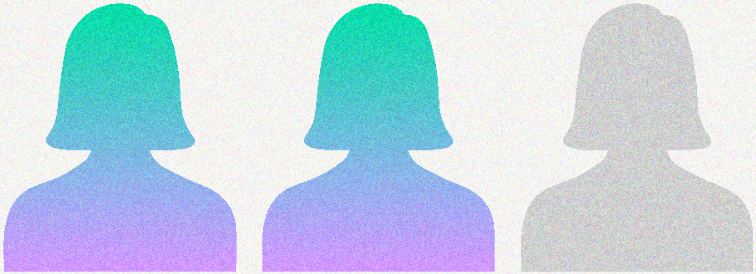
「女の子らしさ」って
なんだろう？

女の子だから、男の子だから、と言われた経験がある人は、対象者全体の 6 割。
ガールズの 63.1% が経験ありと回答したのに対し、ボーイズは 57.3%。
それによって、どんなことが彼女たちに起こっているのだろう。詳しく見ていきましょう。

回答：ガールズ（15-24歳）

「女の子だから」という声に
日々、さらされているガールズ。

Q.「女の子だから」と言われたり、
扱いを受けたりしたことがあるガールズ



3人に2人

回答：ガールズ（15-24歳）

Q.「女の子だから」という扱いを受けた経験

「祖母に、女の子なんだから
大人しくしてと言われた。」—16歳女性/高校生

「母に、男の子みたいな**短い髪にすべきでない**
と言われた。」—22歳女性/大学・大学院生

「元カレに、『**女子は男子を引き立てなきゃいけない**』
と言われ、私がお金を払う際に、元カレにお金を
渡し、男性を引き立てた。」—17歳女性/高校生

「上司に、女性なんだから
事務所で仕事した方がいいと言われた。」—24歳女性

「学校の先生に、**女の子だから教室で読書した方が
いいわよ**と言われて、外で遊ぶことを我慢した。」
—15歳女性/高校生

「女は**大人しく読書した方がいい**
と職場の先輩に言われた。」—23歳女性

「女の子が**サッカーなんてやるもんじゃない**
と母に言われた。」—15歳女性/高校生

「親戚のおじさんに、弟に対しては何も言わない
のに、私には『**母親たちを手伝ってきて**』と指
示され、女性たちだけでお茶汲みと食器洗いな
どの準備をしていた。」—20歳女性/大学・大学院生

「**女の子らしい服装**にしたほうがいい
と友達に言われた。」—21歳女性

「小学校の時の異性のクラスメイトに、
女子なら体毛を剃るべきと言われ、剃った。」
—22歳女性/大学・大学院生

回答：全体（15-79歳）／ガールズ（15-24歳）

「女の子はこうあるべき」の声がけが、彼女たちの翼を折っているかもしれない。

Q. 女の子・女性への考え方は？

1位	きれい好き、片付け上手である方がよい	41.7%
2位	字は綺麗である方がよい	40.4%
3位	いつも行儀がよく、マナーを身につけている方がよい	35.7%

Q. 「女の子だから○○すべき／○○できない」と言われたときの気持ちは？

1位	うるさい	45.3%
2位	ムカつく	44.9%
3位	イライラ	41.6%

女の子はきれい好き／字は綺麗であるべき／行儀よくあるべきというステレオタイプが存在。
他方、ガールズは「女の子だから」と言われた時に「うるさい」や「ムカつく」という嫌悪感が強くあらわれている。

Table of Contents

ガールズの人生につきまとう「女の子だから」という偏見を過去・現在・未来の視点で探っていきます。

Chapter 1.

CHILD

子どもの頃から
「女の子だから」の偏見は
始まっている？

Chapter 2.

NOW

「女の子だから」は
今どんな形でガールズを
悩ませているか。

Chapter 3.

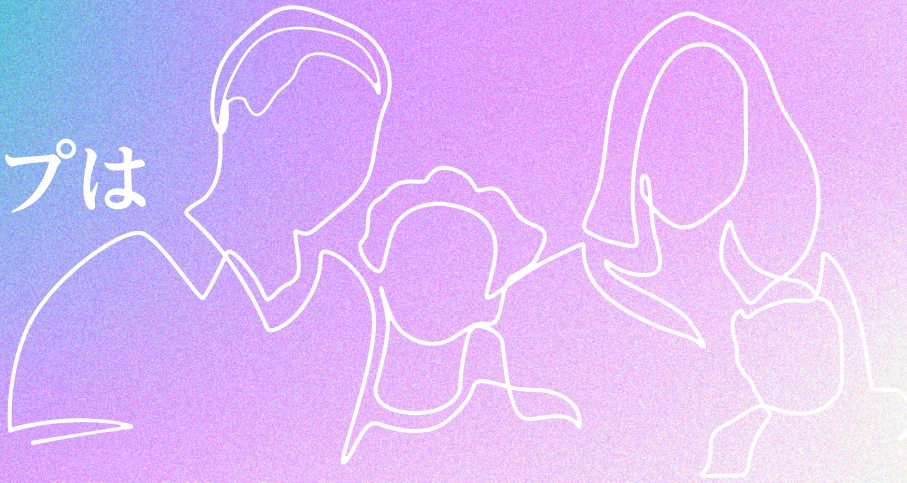
FUTURE

ガールズの未来に
どう影が落ちていて、
どう光が当たっているのか。

Does the gender gap starts from
the family?

Chapter *1*

ジェンダーギャップは家庭から？

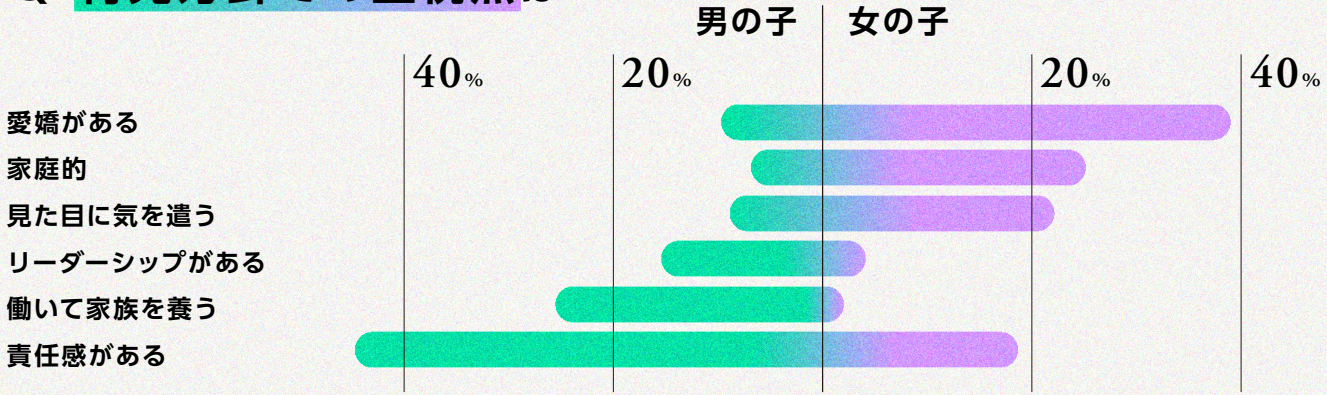


子どもの頃からジェンダー規範（女だから・男だからといった性別による規範）を感じることが多く、
それによりガールズが自分らしくあることを諦めたり、やる気を削がれたりする傾向に
あることがわかりました。では、その規範はどこから生まれているでしょうか。

回答：子どもを持つ親（25-79歳）

生まれた時から男女で育児方針が分けられている。

Q. 育児方針での重視点は？



『女の子』と『男の子』の子育て・育児における重視点を比較すると、「愛嬌」「家庭的」「見た目」などで、『女の子』が『男の子』を大きく上回った。一方、「リーダーシップ」「家族を養う」「責任感」では、『男の子』のスコアが高い。性別による“あるべき姿”というものが、子育て・育児段階から重視されている様子。

回答：子どもを持つ親（25-79歳）/ガールズ（15-24歳）

親の期待ばかりが膨らみ、少女たちの夢や挑戦に大人は気づけていない。

Q. 親の子どもへの期待 vs ガールズが「自分が期待されている」と思うこと

親の期待が上回るもの TOP5

家事が得意	+17.9%
愛嬌がある	+15.4%
見た目に気を遣う	+14.2%
家庭的	+14.0%
気配りができる	+11.6%

親の期待が下回るもの TOP5

勉強ができる	−13.5%
社会で活躍する	−6.9%
行儀がよい、礼儀正しい	−6.0%
働いて家族を養う	−4.9%
バリバリ働く	−3.5%

※「親が期待していること」−「ガールズが、親や祖父母から期待されていると思っていること」の差分

回答：同居家族がいる人（15-79歳）

Q. 家庭内で感じるジェンダーギャップ

「**洗濯、料理などが女性の仕事**と
暗黙の了解になっている気がするから。」
—17歳男性/高校生

「お父さんは自分の好きなことばっかりしていて
お母さんは料理とか洗濯とかしとるのに**洗い物とか溜まってると文句を言う**。」—15歳女性/高校生

「休みの日に**父親が食べて寝るか
自分の用しかしない**ところ。」
—20歳女性/大学生・大学院生

「母に負担が偏り、その**母の不満の捌け口が
私となってしまっている**（後、鬱を発病）。」
—17歳女性/高校生

「父は**俺の方が稼いでいるから**と家事をしない。」
—17歳女性/高校生

「家事育児は全部私がやった。**誰が稼いでると
思っている**と言う旦那に悩まされてきた。」
—60歳女性/専業主婦

「**母親ばかりが家事をしていて忙しそう**、
父親は仕事が終わったらゲームしかしていない。」
—17歳女性/高校生

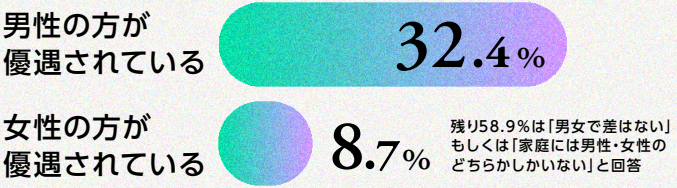
「働いているとか関係なく**家のことは住んでる
全員が関心やる気を持つべき**。」—23歳女性

「**男はソファに座って何も動かない**。
動いてるのは私達女だけ。」
—19歳女性/大学生・大学院生

「**母がいつもせわしなく家事をしていて**、
父はゆったりテレビを見ていたりすること。」
—21歳女性/大学生・大学院生

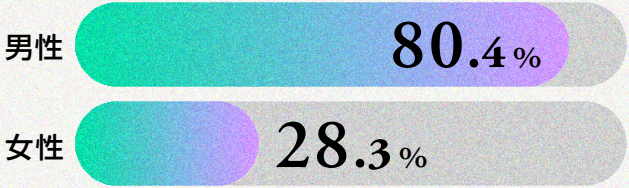
男性優遇の家庭環境。
そして、それが「理想的」になってしまう悪循環。

Q. 家庭内での男女の役割は？



「男性の方が優遇」と回答した人のうち

Q. それは今、理想の状況である



男性が優遇されているのに、男性の８割はそれを理想的だと思っている。女性のうち約３割もその状況に対して、当たり前だと見過ごしている。

ジェンダーギャップ振り返りチェックリスト

あなたのご家庭でも実はあるかも…？

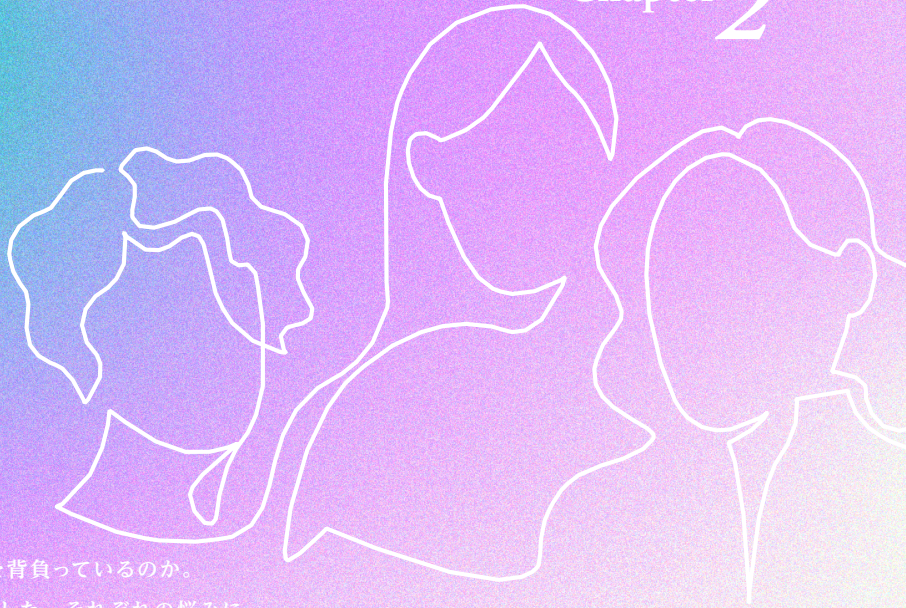
- □ 家事の分担について、家族と相談したことはない。
- □ 自分が家事をするとき、“手伝い”という感覚がある。
- □ 男性は育児休業をとらなくてもよいと思う。
- □ 子どもが女の子なら、おしとやかな子に育ってほしい。
- □ 子どもが男の子なら、責任感がある子に育ってほしい。
- □ 親戚の集まりでは、男性よりも女性のほうがよく動いている。
- □ 「女の子／男の子だから〇〇すべき」と、家族に言ったことがある。

1つでも当てはまった方は要注意！自分の行動を振り返ってみましょう。

Our reality, our struggle

Chapter 2

私たちのリアル
私たちの悩み

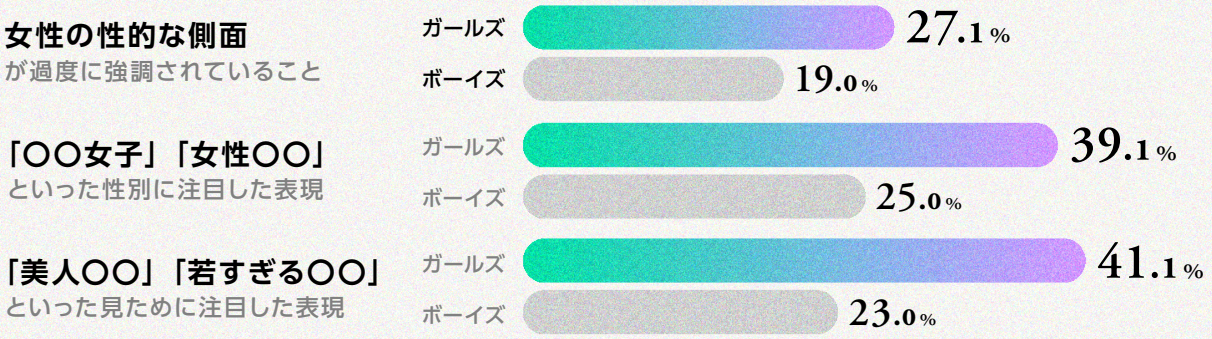


実際にガールズが、今どんな目にさらされ、どんな苦労を背負っているのか。
なかなか目には見えないそのリアルをとことん探ってみました。それぞれの悩みに
解決策はまだないかもしれませんが、その悩みを知ることには大きな意味があると信じています。

回答：ガールズ・ボーイズ（15-24歳）

なんで「女性だから」と特別視されるんだろう。

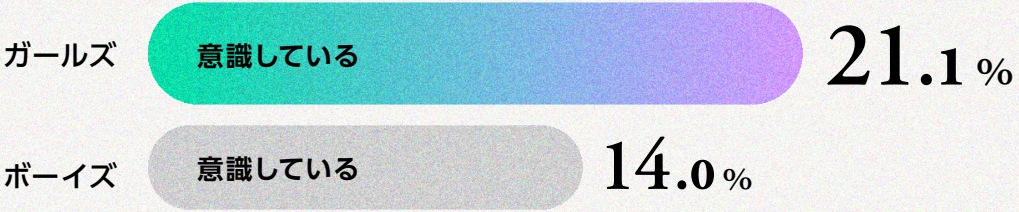
Q.メディアやSNSで触れる情報で気になるものは？



ボーイズに比べて、過剰に特別視されるガールズ。その状況に違和感を感じている。

私の好きな自分だと、受け入れてもらえないかも。

Q.好きな人の好みに合わせた服装や髪型、メイクを意識している？

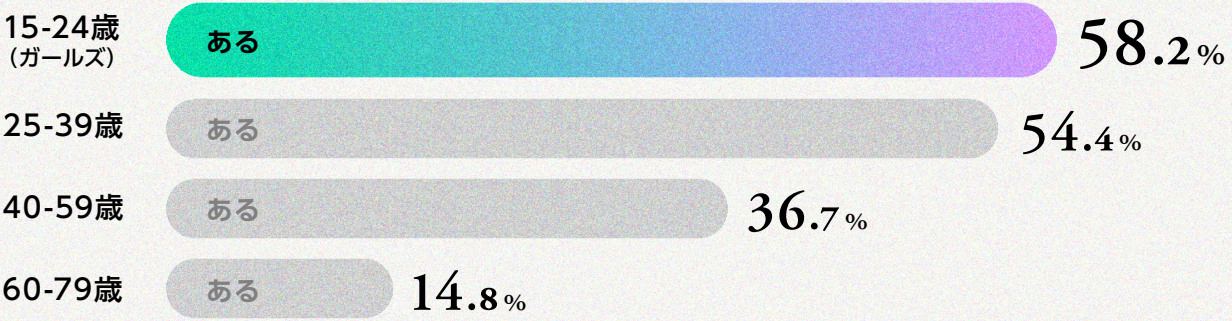


ボーイズたちに比べて、好きな人の好みに合わせた服装や髪型・メイクを意識しているガールズ。
「自分らしさ」と「好きな人に合わせる」を天秤にかけている様子が見てとれる。

回答：女性（15-79歳）

体毛なんて、あって当たり前なはずなのに。

Q.体毛のことで悩んだことがある？



「体毛のことで悩んだことがある」というガールズが約6割。若ければ若いほどその悩みは強い傾向にある。

Our Future

Chapter 3

私たちの未来

「女の子らしさ」の呪縛は彼女たちの未来にも影響してきます。
ガールズが将来に対してどんな不安を抱えているのか。逆にどんな夢を描いているのか。
具体的に深ぼっていきます。

回答：ガールズ・ボーイズ（15-24歳）

男女の夢、なんでこんなに違うんだろう。

Q. 将来、なりたい職業は？

ガールズ TOP10

1. 会社員
2. 公務員
3. 看護師
4. 事務職
5. 管理栄養士
6. 教師/先生
7. 保育士/幼稚園教諭
8. 専業主婦
9. デザイナー
9. CA/グランドスタッフ

ボーイズ TOP10

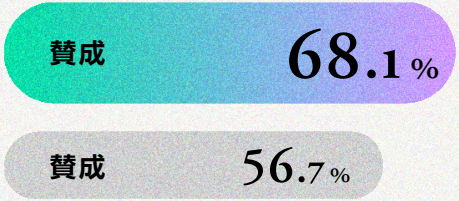
1. 公務員
2. エンジニア
3. 教師/先生
4. 会社員
5. 医師
6. 経営者/役員
7. スポーツ選手
8. 研究者/学者
9. プログラマー
10. 建築士

ガールズではケア / サポート業務、ボーイズでは理系分野の職業が人気な傾向にある。

ガールズばかりアップデートされていく結婚観。

Q. 同性婚に賛成？

Q. 夫婦別姓に賛成？



ガールズは、「同性婚」や「夫婦別姓」に３分の２以上が賛成し、ボーイズを大きく上回る。新しい価値観にどんどんアップデートしている様子がうかがえる。

出産・育児の価値観にも、まだまだ溝がある。

Q. 無痛分娩に賛成？

ガールズ	賛成	40.5%
ボーイズ	賛成	20.0%

Q. 子どもが生まれたら、育児休業をとる？

育児休業をとる	51.0%
育児休業をとる	30.3%

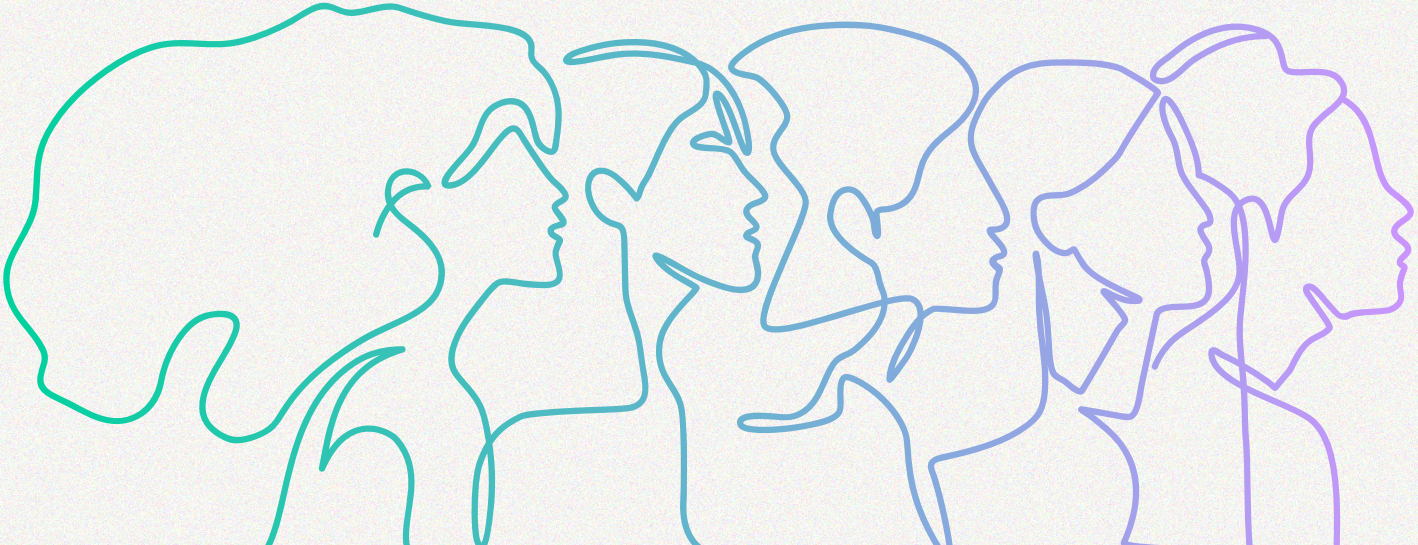
「無痛分娩」や「育児休業」の議論に賛成するガールズがボーイズに比べて多い。

ガールズはかわいそうな存在なのか？

ここまで見てきて、家庭内のジェンダーギャップは根深い問題。活躍しても女性だからと特別視され、
個性を出して好きな自分にもなりづらい。将来の夢にも男女で大きな偏りがあり、結婚観も出産・育児の価値観も
ガールズばかりアップデートされて、ボーイズとの差は開く一方…。ガールズはかわいそうな存在なのでしょうか？

ガールズには力がある。

Girls have *power*.



回答：全体（25-79歳）

ガールズには愛される力がある。

Q. 家族など周りから愛されていると感じる

回答：全体（25-79歳）

ガールズには味方をつくる力がある。

Q. 自分のことを理解してくれる人がいる

回答：全体（25-79歳）

ガールズには前を向く力がある。

Q. 自分の置かれた環境は恵まれている

Q. 自分の将来に希望を持つことができる

女の子らしさに縛られない、
女の子の未来を。

前を向いて、周りの人間に愛されて、ちゃんと味方をつくって。
ガールズには力があります。

でも、そんな彼女たちが「女の子らしさ」に縛られなかったら…。
きっともっと自由に羽ばたいていけたんじゃないか。
そう思わずにはいられません。

このレポートを読んでくださったあなたへ。
日常の中に当たり前に潜んでいる「女の子らしさ」を、もっと疑ってみませんか？
この社会には無意識の偏見がたくさん散らばっている。
それを“知る”ことから、少しずつ変えていきませんか。

社会に求められる「女の子らしさ」ではなく、
「わたしらしさ」を胸に、堂々と生きていける少女が増えることを願って。